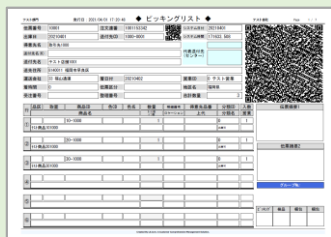


LS.Core のピッキングリストについて

通常ピッキングリストには以下の3種類があります。



単票ピッキングリスト



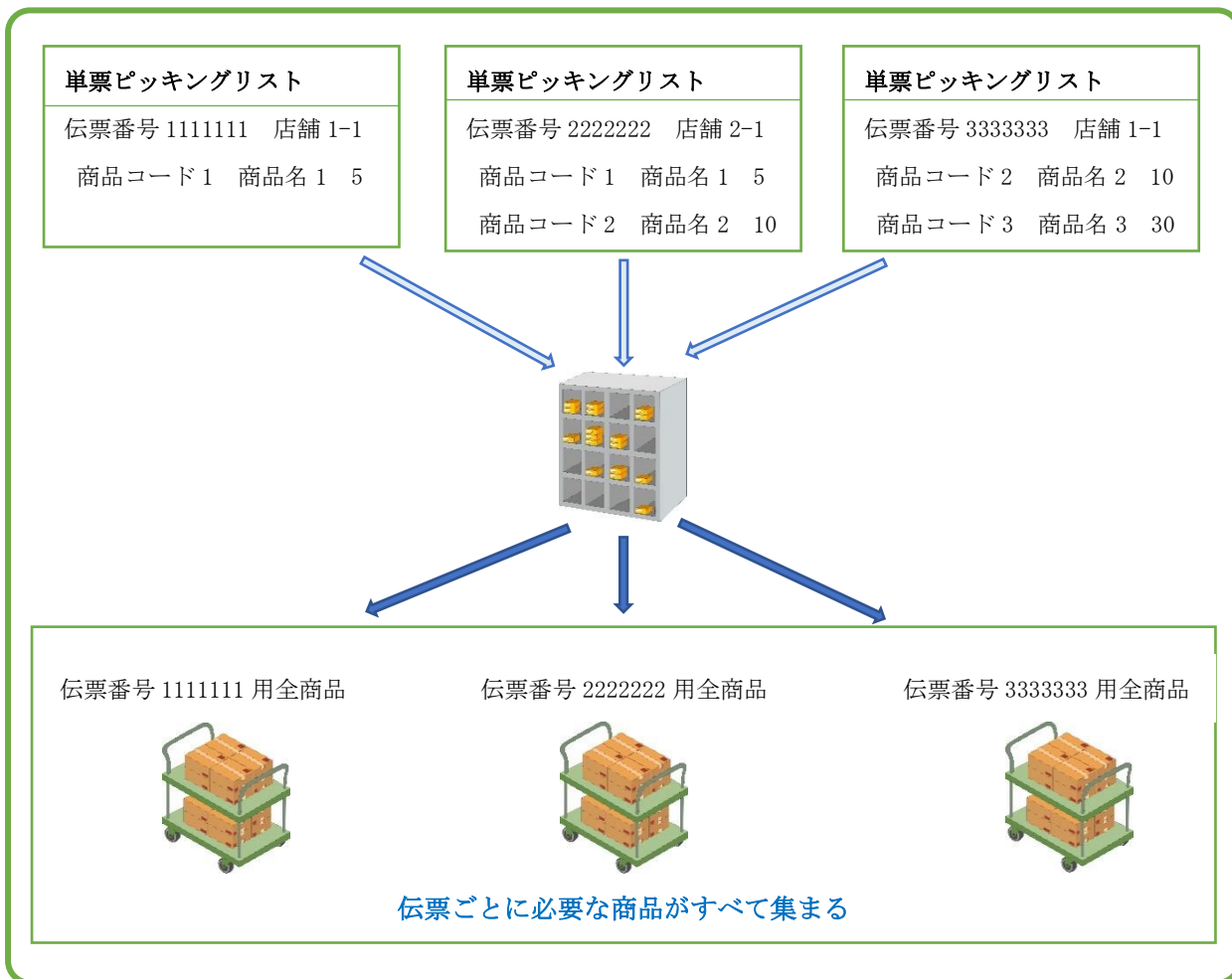
トータルピッキングリスト



まとめピッキングリスト

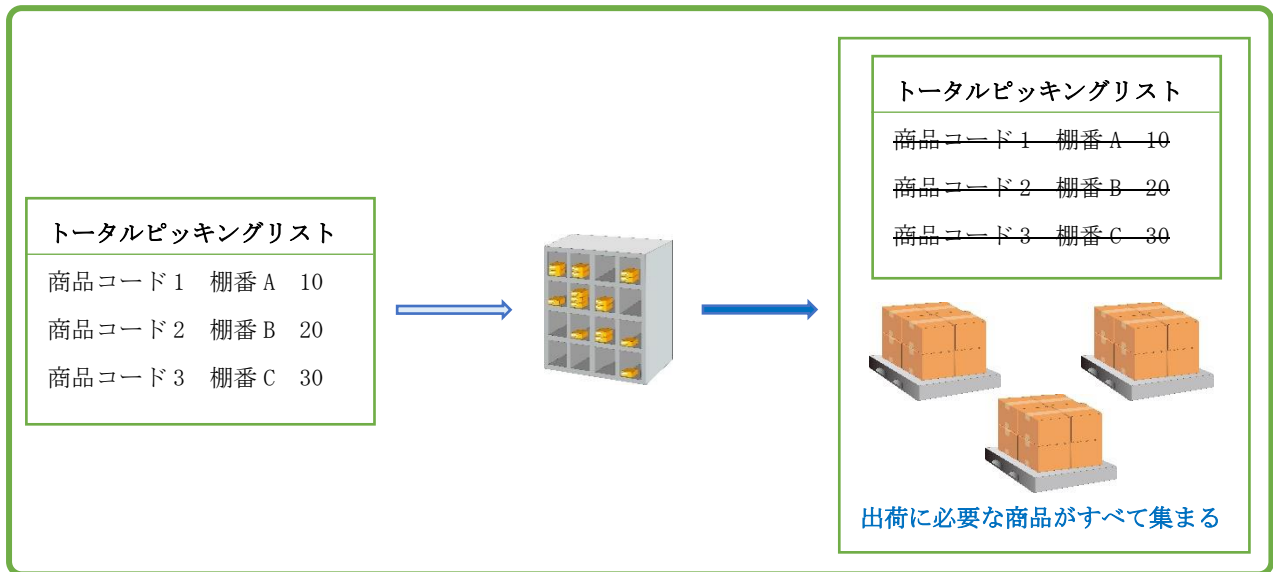
単票ピッキングリスト(オーダーピッキングリスト)とは・・・

伝票番号ごとに店舗や商品コード、数量などが記載されている一般的なピッキングリストです。受注番号や摘要など詳しい情報を記載しているのでも梱包時の最終チェックには必須ですが、単票ピッキングリストだけでピッキング作業を行うと伝票番号ごとに商品を集める形となる為に、倉庫内を何度も行き来する事になり、あまり効率的とは言えません。



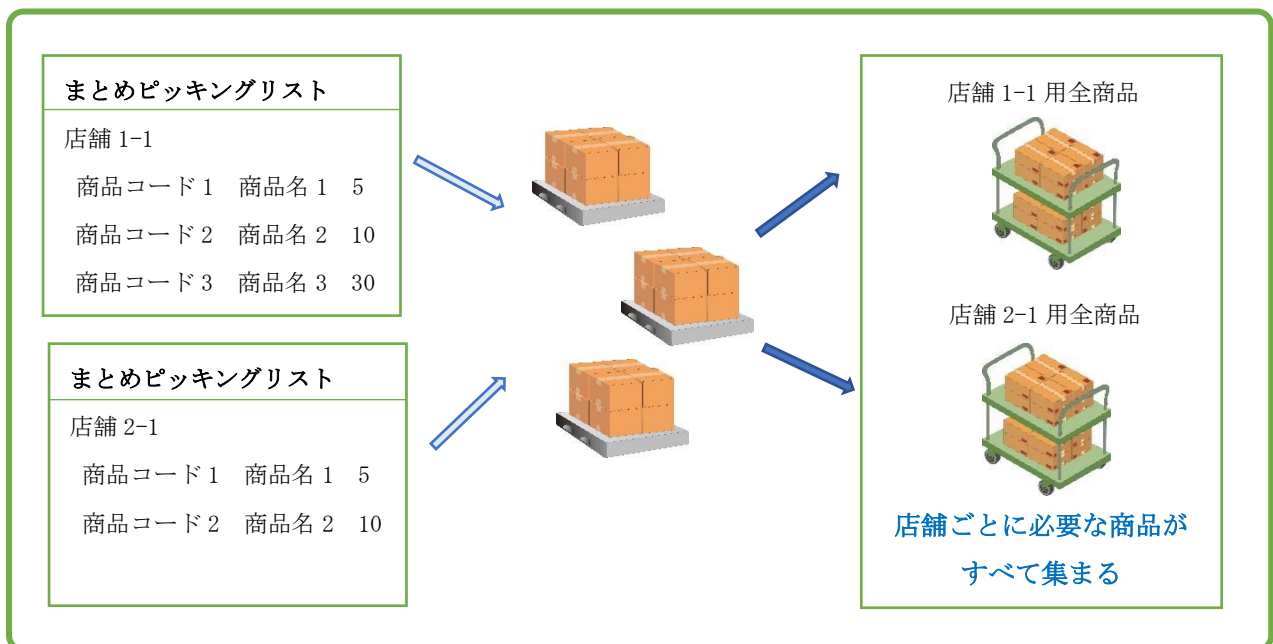
トータルピッキングリストとは・・・

当日の出荷に必要な商品の商品コードや棚番、数量などを記載したピッキングリストです。単票ピッキングリストで個別にピッキングを行う前に、フォークリフト等を利用してすべての商品を一か所に集めることでピッキング作業員の移動範囲を狭めることができ、作業の効率化ならびにフォークリフトとの衝突防止にも効果があります。



まとめピッキングリストとは・・・

店舗別(梱包する単位)に商品コードや数量などを記載したピッキングリストです。1つの店舗で複数の伝票番号が存在する場合、単票ピッキングリストだと1ページ(伝票番号)ごとに商品を集めて回る形になりますが、まとめピッキングリストだと複数伝票分の商品が纏めて記載しているので効率良く集める事が出来ます。また、梱包時にも中身のチェックが行いやすく、誤出荷の軽減にも役立ちます。



当社には、さらに以下の2種類があります！！

店振表

パターン表

単票&トータル&まとめの3種類のピッキングリストを活用することでピッキング作業の改善が可能ですが、取引先によっては値付けや梱包方法などピッキング後の作業が他とは異なる場合もあり、取引先別にピッキングする方が効率良い場合もあります。

そこで、更に作業効率をあげるのが、**店振表**です。

店振表は取引先単位で出力され、店舗と商品のマトリックス構成になっているため、店舗毎に必要な商品と取引先(全店舗分)の総数(合計)が一目でわかります。その為、全店舗分のピッキングを行った後に、取引先に応じた値付けを行い、同じリストで店舗別に振り分ける事が可能です。

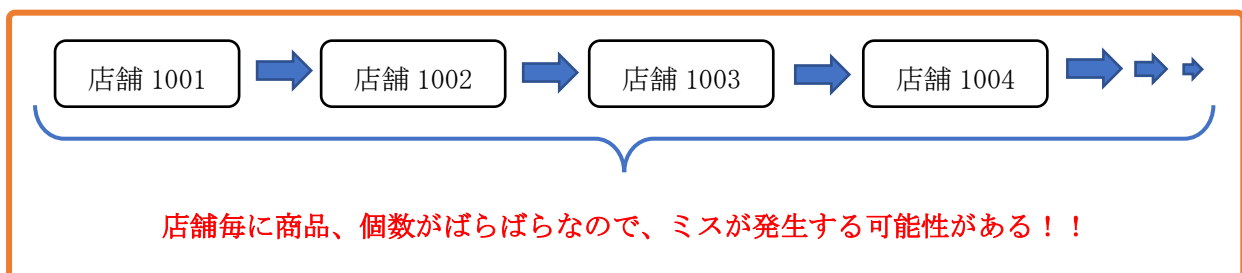
1000 取引先1000 店舗納品

出庫日: 20210401

			マ/店舗 1001	マ/店舗 1002	マ/店舗 1003	マ/店舗 1004	マ/店舗 1005	マ/店舗 1006	マ/店舗 1007	
商品	色	取置	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	計
10-1000	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
20-1000	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
30-1000	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
40-1000	0	0	1	1		1	1	1	1	6
50-1000	0	0	1			1	1	1	1	5
60-1000	0	0	1			1	1	1	1	5
計			6	4	3	6	6	6	6	37

Report 1 店振表

店振表により**どの商品がどの店舗にいくつ必要か**を即座に確認することが可能となりますが、店舗によって商品の種類や個数が異なるため、店舗数が多いとミスが起きる可能性も増えます。



しかし、店振表をよく見ると、**同じ商品を同じ個数**で注文している店舗があります。下記の場合は3つのパターンに分けることが出来ます。

1000 取引先1000 店舗納品
出庫日: 20210401

商品	色	取置	テスト店舗 1001	テスト店舗 1002	テスト店舗 1003	テスト店舗 1004	テスト店舗 1005	テスト店舗 1006	テスト店舗 1007	計
10-1000	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
20-1000	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
30-1000	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
40-1000	0	0	1	1		1	1	1	1	6
50-1000	0	0	1			1	1	1	1	5
60-1000	0	0	1			1	1	1	1	5
計			6	4	3	6	6	6	6	37

テスト店舗 1001	テスト店舗 1002	テスト店舗 1003	テスト店舗 1004	テスト店舗 1005	テスト店舗 1006	テスト店舗 1007
0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007
1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1
1	1		1	1	1	1
1			1	1	1	1
1			1	1	1	1
6	4	3	6	6	6	6

パターン1

パターン2

パターン3

そこで、更にお勧めしたいのが、**パターン表**です。

1000 取引先1000
出庫日 20210401

商品	色	品名(代表)	数量	件数	計	関連店舗
10-1000	0	テスト商品101000	1	5	5	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 1000-0001 テスト店舗1001 1000-0004 テスト店舗1004 1000-0005 テスト店舗1005 1000-0006 テスト店舗1006 1000-0007 テスト店舗1007 </div>
20-1000	0	テスト商品201000	1		5	
30-1000	0	テスト商品301000	1		5	
40-1000	0	テスト商品401000	1		5	
50-1000	0	テスト商品501000	1		5	
60-1000	0	テスト商品601000	1		5	
計			6		30	

1000	取引先1000					
出庫日	20210401					
商品	色	品名(代表)	数量	件数	計	関連店舗
10-1000	0	テスト商品101000	1	1	1	1000-0002 テスト店舗1002
20-1000	0	テスト商品201000	1		1	
30-1000	0	テスト商品301000	1		1	
40-1000	0	テスト商品401000	1		1	
計			4		4	

Report 3 パターン2

1000	取引先1000					
出庫日	20210401					
商品	色	品名(代表)	数量	件数	計	関連店舗
10-1000	0	テスト商品101000	1	1	1	1000-0003 テスト店舗1003
20-1000	0	テスト商品201000	1		1	
30-1000	0	テスト商品301000	1		1	
計			3		3	

Report 4 パターン3

商品の種類と個数が同じ店舗ごとに出力されるため、パターンごとに分かれて梱包することで・・・

パターンを切り替える回数が
飛躍的に減少する

↓

**倉庫作業がスムーズ！
速度アップ！**

同じ内容で複数の梱包が
一気に作成できる

↓

**効率アップ！
正確性OK！**

5種類のピッキングリストを使い分ける事で
ピッキング作業の大幅な改善が可能！！

LS.Core で効率的な倉庫作業！